

安 全 デ ー タ シ ー ト

整理番号 TNI 00519

作成日 2005/12/1

最終更新日 2015/1/1



1. 化学物質及び会社情報

会 社 : 大陽日酸株式会社
 住 所 : 〒142-8558 東京都品川区小山 1-3-26 東洋 Bldg.
 担当部門 : SI 事業部 担 当 者 : 平 博 司
 電話番号 : 03-5788-8695 FAX 番号 : 03-5788-8710
 緊急連絡先 : SI 事業部 (電話番号 03-5788-8550)
 メールアドレス : Isotope.TNS@tn-sanso.co.jp
 ホームページアドレス : <http://stableisotope.tn-sanso.co.jp>

化学物質	1, 2-ジブロモエタン
------	--------------

製品名	1,2-ジブロモエタン- ¹³ C ₂ 、1,2-ジブロモエタン-d ₃ 1,2-ジブロモエタン-d ₄
-----	---

* 安定同位元素で標識された化合物は、標識核種及び位置により製品名称が異なりますが、安全性データは非標識化合物と同一とみなします。従って、特に指定しない限り本シートに記載されているデータは、非標識化合物のデータを採用しています。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性：	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	区分外

	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分 3
	急性毒性（経皮）	区分 3
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分 2
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分 1B
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 1(肝臓、腎臓、中枢神経系)
環境に対する有害性：	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分 3(気道刺激性)
	吸引性呼吸器有害性	区分 2（呼吸器、肝臓、腎臓）
	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	区分 3

ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語： 危険
危険有害性情報： 飲み込むと有毒（経口）

皮膚に接触すると有毒（経皮）
吸入すると生命に危険（蒸気）
皮膚刺激
強い眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
肝臓、腎臓、中枢神経系の障害
呼吸器への刺激のおそれ
長期又は反復の粉じん吸入ばく露による呼吸器、肝臓、腎臓の障害のおそれ
水生生物に有害

注意書き：

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
換気装置を使用し、ばく露をさけること。
適切な呼吸用保護具、保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。
蒸気を吸入しないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
吸入した場合、直ちに医師に連絡すること。
直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、又は取り除くこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

漏出物は回収すること。

【保管】

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

3. 組成・成分情報

単一製品/混合物の区分	単一の化合物
化学名	1, 2-ジブロモエタン
別名	二臭化エチレン
含有量	98.0%以上
化学式又は構造式	$\text{CH}_2\text{BrCH}_2\text{Br}$
官報公示整理番号	化審法：(2) - 59
CAS番号	106-93-4
国連分類番号	6.1 (毒物 P. G 2)
国連番号	1605

4. 応急措置

目に入った場合	直ちに多量の水で15分以上洗い流す。直ちに医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣服やくつを脱がせる。付着部又は接触部を石けん水又は多量の水で十分に洗い流す。もし、皮膚に炎症を生じた時は医師の手当を受ける。
吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、安静保温に努める。呼吸困難又は呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行う。直ちに医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合	よく口をすすぐ。吐かせない。安静保温に努め、直ちに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤	粉末、泡、炭酸ガス、水 (噴霧)
-----	------------------

消火方法 …………… 火災の高温面や炎に触れると有毒なホスゲン、塩化水素、塩素を生成することがある。速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能の場合には容器及び周囲に散水して冷却する。消火剤を使用して消火する。消火作業は保護具を着用し、風上から行う。

6. 漏出時の措置

…………… 漏出した液は、密閉できる容器に集め、その後を土砂、不活性吸収剤に吸着させて、更に完全に拭き取り、密閉式空容器に回収する。作業は必ず保護具を着用し、風上から行う。下水等に排出されないように注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い …………… 取扱い、貯蔵の場所の床面は原則としてコンクリート等の地下への浸透が防止出来る材質とする。強酸化剤、強塩基との接触をさける。吸い込む、目、皮膚および衣類に触れるということがないように、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。容器を密封または局所排気装置を設置する。容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。

保管 …………… 容器は直射日光を避け、冷暗所に貯蔵し、密閉して、空気との接触を避ける。その他毒物及び劇物取締法に定めるところに従う。

8. 暴露防止及び保護措置

保護具 …………… 有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器、保護眼鏡、保護手袋、保護長靴

設備対策 …………… 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置の設置をする。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

9. 物理及び化学的性質

外観等 …………… 無色透明の液体、特異臭。

沸点 …………… 131℃

融点 …………… 10℃以下

比重 …………… 2.1707 (25 / 4℃)

溶解度	水に難溶。(0.4 g / 100 ml 水) アルコール、エーテルなど各種有機溶剤に易溶。
蒸気圧	1.4 kPa (20℃)
蒸気密度	6.5 (空気=1)
発火点	490℃

10. 安定性及び反応性

安定性及び反応性	安定。高温面または炎に触れると分解して、有毒で腐食性のガス（一酸化炭素および臭化水素）を生じる。
----------	--

11. 有害性情報

急性毒性	吸入	ラット	TLC0	400 ppm / 2時間
	経口	ウサギ	LDL0	55 mg / kg
	腹腔内	マウス	LD50	220 mg / kg
	皮膚	ウサギ	LD50	300 mg / kg
刺激性	皮膚刺激	ヒト	1538 mg / 2時間	重度
	眼刺激	ウサギ	1%	
皮膚腐食性	皮膚に接触すると、刺激性が強く炎症や潰瘍を起こす。			
慢性毒性	長期間暴露により慢性的な鼻汁、気管支分泌、消化不良を起こすことがある。			
がん原性	IARC：グループ2A（多分ヒトに発がん性がある化学品） NTP：グループb（発がん性があると合理的に予想される化学品）			
変異原性	変異原性が認められた既存化学物質（労働省通達基発第80号‘91.2.4）			
	微生物を用いる変異原性試験：			
	比活性値 9.3 x 10 ² revertants / mg			
	哺乳類培養細胞を用いる染色体試験：			
慢性毒性	D20値 0.17 mg / ml			
	中枢神経系、肝臓、腎臓、粘膜に影響が出ることがある。			

12. 環境影響情報

魚毒性	ヒメダカに対する急性毒性		
	LC50：183 mg / L / 48時間		
その他	log Pow（オクタノール／水分配係数）：1.93		

13. 廃棄上の注意

..... 過剰の可燃性溶剤又は重油等の燃料と共にアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、できるだけ高温で焼却する。スクラバーの洗浄液には、アルカリ（水酸化ナトリウム）溶液を用いる。焼却炉は有機ハロゲン化合物を焼却するのに適したものであること。

14. 輸送上の注意

..... 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。その他、毒物及び劇物取締法に定めるところに従う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物 変異原性が認められた既存化学物質
毒物及び劇物取締法	劇物
大気汚染防止法	有害大気汚染物
海洋汚染防止法	有害液体物質（B類物質）
バーゼル法	廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの
航空法	輸送禁止
船舶安全法	毒物類・毒物
港則法	危険物・毒物類
道路法	車両の通行の制限
外為法	輸出貿易管理令別表第二 輸入貿易管理令第4条第1項第2号

16. その他の情報

【参考文献】

国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版 化学工業日報社(1992)
 Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH(1985 - 86)
 産業中毒便覧 後藤稠 他編 医歯薬出版(株)(1977)
 危険物防災救急要覧ー化学物質の性状と取扱いー (社)神戸海難防止研究会編
 成山堂書店(1990)
 化審法の既存化学物質安全性点検データ集 (財)化学品検査協会編(1992)
 化学品法規制検索システム 日本ケミカルデータベース
 GHS 仕様モデル SDS 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

-
- * この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。また、含有量、物理及び化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の手扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。